

とびだそう 未来へ

目次

巻頭言

生徒が主役の
評価に取り組もう ②

西野 真由美

評価特集

生徒の成長をさらに促す
応援メッセージとしての評価 ④

鈴木 賢一

生徒・保護者・先生が
うれしい評価 ⑦

対話的で深い学びの授業を通して

増田 千晴

道徳科における
組織的な評価の試み ⑩

「ローテーション道徳」を通して

星 美由紀

連載／「考え、議論する」道徳科の授業づくりのヒント

多面的・多角的な学びのある授業をつくる ⑭

対話的な学びと思考の見える化

桃崎 剛寿

連載／いじめをなくす道徳授業

美しいクラスとは、どんなクラスでしょう ⑰

千葉 孝司



生徒が主役の 評価に取り組もう



にしのみゆみ
西野 真由美

国立教育政策研究所

「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）における評価の方針を提起した「専門家会議」は、その1年半に及ぶ審議の多くを指導法の検討に費やしました。「考え、議論する道徳への転換」に求められる「質の高い多様な指導方法」の例示も、この会議で作成されています。なぜ、このように指導法の検討が重視されたのでしょうか。それは、指導法の改善なしには、そもそも学習評価が行えないからなのです。

教科化に向けた審議で再三指摘されてきたように、教材の登場人物の心情理解のみに終始したり、望ましいと思われることを言わせたり書かせたりするような授業を重ねても、評価はできません。道徳科における評価は、生徒の学びの姿の記録だからです。

生徒一人一人が活躍できる授業、教師が子どもの本音に耳を傾けようとする授業、生徒同士が話し合って多様な見方・考え方に気づき、学びの意義を実感できる授業。そんな授業の実現を目指していけば、生徒の学びの姿を記録するのは決して難しいことではなくなります。むしろ、一年間、ともに授業をつくってきた生徒たちに、「よさを認め励ます」言葉を贈りたい、そんな思いをもたれるのではないでしょうか。

「指導と評価の一体化」は全教科で求められる学習評価の考え方です。道徳科ではまさしく、指導の充実が評価を可能にします。「考え、議論する」授

業づくりに取り組むなかで、生徒たちのいきいきとした学びの姿がきっと見えてくるでしょう。

よさを認め、励ます個人内評価

さて、ここで、道徳科における評価の基本的な考え方をもう一度、確認しておきましょう。

まず、道徳科では何を評価するのでしょうか。

文部科学省が示している指導要録（参考様式）に「学習状況及び道徳性に係る成長の様子」とあるように、道徳科における評価とは、道徳科の学習活動で見られた生徒の学びの様子や成長の記録です。生徒の内面や価値観、道徳性そのものを教師が評価するわけではありません。

次に、評価を具体的に記述するうえで、おさえておくべきポイントが三つあります。①個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえて評価すること、②道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度などに分節して観点別に評価しないこと、③生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと、です。

ここで特に注目したいのが、「個人内評価」です。というのも、各教科の学習評価では、「観点別学習状況」を目標に準拠して評価しているからです。道徳科も同様に、内容項目別に評価規準を設定するの、と思われた先生もいらっしゃるでしょう。しかし、道徳科の評価は、目標準拠評価ではありません。

「目標に準拠した評価」では、学級に共通の評価規準を設定して実現状況を評価します。対して、個人内評価は、共通の規準に拠らず、生徒一人一人の「よさ」を評価します。

現行の指導要録でも、「所見」欄は個人内評価で行っています。ただし、所見では「よさ」だけでなく課題も記録してよいことになっていますが、道徳科では「よさや成長」に限定しています。これはなぜでしょうか。

「発言のない生徒の評価をどうすればよいですか」。こんな質問があがることがあります。よさよりも課題が目につく生徒もいます。教師がよさを記述しようとする中で、その生徒なりの学びと成長が見えるようになることが期待されているのです。

ただ、それだけでは漠然としてわかりにくい、という声もあるでしょう。学びを見取る手がかりとして、学習指導要領解説では、二つの「視点」を提示しています（「視点」と呼ぶのは、観点別評価の「観点」と混同されないためです）。

一つは、「自己を見つめる」こと。もう一つは、「多面的・多角的に考える」ことです。これらは目標に示された学習活動です。学習活動の充実が、そのまま評価の充実につながっていることがわかります。

その際、解説では「どれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない」と明示しています。とりわけ中学校では、生徒自身の価値観を無視して“望ましい”価値理解を示しても生徒の心には届きません。生徒が自分の「見方・考え方」に気づき、「自ら道徳性を養う」意欲をもてるよう、「考え、議論する」授業を実現しましょう。

でも、「よさ」だけで課題を記述しなくてよいのでしょうか。もちろん、課題を意識することは大切ですが、それは生徒自身が見いだしていくものです。大切なのは生徒が「自己を見つめる」学習活動です。道徳科における評価の主役は、生徒自身が自己を見つめる自己評価なのです。

自己評価としてワークシートにチェックリストを設ける例はよくみられます。ただし、それだけでは生徒自身の自己評価力は育ちません。

めあてや目標をもって授業に臨み、学んだことや気づきをふり返り、課題や新たな問いを見いだす。この一連のプロセスで自己を見つめる力を育てられるよう、教師が生徒の学びの成長に気づきを促したり、自己評価の理由を尋ねたりしながら、よさを見いだし励ます対話的な評価が求められます。このような「学習活動としての評価」が充実すれば、生徒の自己評価の成長を教師の評価に活用できるようになります。

評価に向けて学校の準備を進めよう

生徒のよさを教師が見いだしていくには、実際に多くの目で生徒の学びを見取ることが有効です。

中学校には、教科学習を通して担任以外の教師が生徒に関わる体制があります。ローテーション授業は、学年などのチームで道徳教育に取り組むためにもよい工夫でしょう。授業後に、職員室で情報交換するだけでも意外な発見があります。

もう一つ大切なのが保護者への発信です。どんな評価がなされるのだろうか、と不安を抱く保護者も多いでしょう。また、たとえば、「思いやりのある行動がみられた」といった評価を期待する保護者からすれば、道徳科の評価文は期待はずれにもなりかねません。保護者の評価に対するイメージは、道徳科の評価への誤解を生む大きな要因です。

そこで、学級通信などを通し、保護者に対して、道徳科の評価の考え方を積極的に発信することが大切です。そして、道徳科が、答えを出すことよりも、悩み迷うプロセスを大切にしている教科であることを保護者に伝えてください。生徒自身の「自己を見つめる」学びの成長を、ときには授業の主題について家庭でともに語り合いながら見守ってもらいましょう。

評価には、教師の見取りが不可欠です。しかし、評価という視線が強すぎると、教師の意図を越えて生徒の考えを誘導してしまいます。まず、生徒が主役の授業を実現しましょう。多様な考えとの出会いの中で生徒たちは自己を見つめるようになります。その成長を先生の言葉で生徒たちに伝えましょう。

生徒の成長を さらに促す 応援メッセージ としての評価

すずき けんいち
鈴木 賢一 あま市立七宝小学校教諭

生徒の成長の様子を見取り、どのように通知表や指導要録に記述していくか。昨年まで勤務していた中学校での実践をもとに、その具体的な進め方を紹介する。ただし、以下はあくまでも参考例であり、今後、各学校等において実践や研究を積み重ね、組織的・計画的に進めていくことが期待される。

◇ 振り返りによる自己評価と道徳ノートを 連動させた評価

学習活動における生徒の具体的な取り組みの記録を蓄積することは大切だが、その成長の様子を一定のまとまりの中で見取くことは容易ではない。膨大な記録はかえって煩雑さを招き、また、それらをどのように分析し、どう評価していったらよいか頭を悩ませることになる。そこで次のような手順で、生徒による自己評価と道徳ノートを連動させて評価文を作成する試みを紹介する。

①年度あるいは各学期の終わりに、道徳授業を振り返り、次のような自己評価をさせる。

- ・最も印象に残った、勉強になった授業を選び、1位、2位、3位をつける。
- ・その理由を書く。
- ・その年度あるいは学期に行った道徳授業全体を通して学んだこと、考えたこと、自分が成長したこと等を記述する。

②①をもとに、その生徒にとって最も心に響いた、あるいはその生徒が輝いた、活躍した授業を見極め、道徳ノートからその時の授業の

ふり振り返り記述を見つける。

- ③自己評価と道徳ノートのふり振り返り記述から、その生徒が特に学んだこと、強く感じたこと、新たに気づいたこと等について、自分なりの言葉で表現している部分を抜粋し、教師が意味付けや価値付けをして、評価文を作成する。

生徒にとって、自分の書いた言葉を称賛してもらえることや、そこに意味や価値を見いだしてもらえることは、自分のよさを認めてもらえたという大きな喜びにつながるであろう。そのためにも評価文は、生徒が自分自身の成長を実感し、さらにそのよさを伸ばそうと前向きな気持ちをもてるものでありたい。

ただし、その生徒にとって最も心に響いた授業を安易に特定してはならない。そのためにも、学期末に行われる二者懇談や三者懇談の際に、道徳授業での成長を確認することが効果的であろう。これは、評価のために行うわけではなく、生徒の成長をとものに喜び合うという姿勢が大切である。そのことを心がけながら、特に保護者を交えて道徳授業を振り返ることは、生徒の成長をさらに促すために、より一層効果のあるものと考えられる。

上記の取り組みをもとに作成した評価文例を以下に二つ紹介する。なお、要録を60字以内、通知票を200字以内と仮定し、通知票の一部を要録に使えるようにした。

●学習状況を要録に記述するパターン

自分の考えを積極的に発言したり自分とは異なる友達の考えを真剣に聞いたりして、新たな発見や学びを得ることができました。(ここまで要録に記載…58字)

「美しい母の顔」や「あなたに」などの授業では、親に対する感謝の気持ちを今まで以上に強くし、自分のこれまでの言動を見直しました。今後は家族の一員として精一杯できることをやりながら、家族の幸せを願い、毎日をいきいきと過ごしていこうという思いをもちました。(全体を通知票に記載…183字)

●道徳性の成長に係る様子を要録に記述するパターン

自分の中の弱さをどう乗り越えたらよいか、1年間の授業を通して考え続け、まずは向き合うことの大切さを知りました。(ここまで要録に記載…55字)

「いつわりのバイオリン」の授業では、級友と話し合いをしていく中で、弱さをもっているのは自分だけではないことを知りました。弱さをもっているからこそ互いに支え合いながら生きていこうという考えに至りました。(全体を通知票に記載…155字)

◇教師の道徳ノートと情報共有ファイルを活用した評価

評価の客観性、妥当性、信頼性を担保するには、できる限り多くの目で一人一人の生徒を見る体制づくりが必要不可欠であろう。担任の主観に偏らず、また、担任の負担を軽減する意味でも、学年、あるいは学校全体がチームとなって評価を行うことが大切である。以下、その具体的な手立てを紹介する。

①教師がローテーションで授業を行う体制を整え、他の学級担任や副担任等がT1として授業を行う。その際、担任はT2として授業に入り、生徒の発言、表情、仕草などを細かく観察する。気づいたことは教師の道徳ノートに記録する。

②①とは逆に、担任がT1として授業を行い、副担任等にT2、T3に入ってもらう。同じく生徒の様子を観察し、気づいたこと等はパソコンの「情報共有ファイル」に入力してもらう。

教師同士、一人一人の生徒の評価について調整を行い、子ども自身が気づいていないよさを認め励ますような評価文を作成する。

道徳授業は原則として学級担任が行うものであるが、授業を行っている間に生徒の細かな様子を見取

ることは難しいため、前述のような組織的な取り組みは大変有効であると考えられる。また、生徒を見取る視点や方法、集める資料などについて、学年や学校で共有することは、評価の質を高めるためにも重要なことである。

生徒にとって、自分では気づいていないよさを教師に指摘されることは大変嬉しいものである。自分にはこんなよさがあったのかと、勇気づけられ、自己肯定感も高まるであろう。また、多くの教師が自分の努力を見ていてくれることに安心感を覚え、教師に対する信頼感を高めることになる。

「複数の教師の視点」には、たとえば養護教諭やスクールカウンセラー、学校支援員等も含まれる。普段の様子をあまり知らないからこそ、先入観なしでその生徒のよさを見つけられることもある。いずれにしても、様々な視点から生徒の成長を捉えるための努力を怠らないようにしたい。

ただし、評価を行うための指導とならないように十分配慮しなければならない。また、評価の客観性、妥当性、信頼性を高めようとするほど、それに比例して教師の多忙感も高まっていく。無理なく、継続して行えるような取り組みを今後、各学校等で模索することが望まれる。



ティームティーチングで授業を行う様子

◇教師のはたらきかけによって成長を促し、よさを認め励ます評価

文章表現が苦手、発言も得意ではない、表情にも表れにくいなどといった生徒には、教師の積極的なはたらきかけが必要である。たとえば次のような手立てが考えられる。

- ・休み時間に教師や友達が声をかけ、一緒に授業をふり返りつつ、記述文を考える。
- ・安心して発言しやすい雰囲気をつくるため、朝の会など授業以外の時間を利用したり、黒板にメッセージを書いたりして教師の思いを伝える。
- ・道徳の授業後に学級通信を発行し、それを参考にふり返りの記述を書かせる。

もちろんこれらのはたらきかけは評価のために行うわけではない。評価をしようとするのが、正しいことを言わせたり、教師がねらいとすることを書かせたりといった、誘導や押しつけにならないよう、十分注意しなければならない。教師には、生徒の本心から出てくる言葉を慌てずにじっくり待つ構えが必要である。そして真にその生徒の心の底から出てきた言葉を謙虚な気持ちで受け止め、さらなる意欲の向上につながられるような評価文を作成したい。

◇ 終わりに ～応援メッセージとしての評価～

昨年度、全校生徒に対して評価文を作成し、その評価文に対する生徒の満足度調査を試みた。調査結果から、評価は生徒の成長を後押しするものであることが実によくわかる。

<評価文>

1年を通して、特に自分の生き方についてよく考えました。「命はそんなにやわじゃない」や「365×14回分のありがとう」などの授業を通して、自分を支えてくれている家族に改めて感謝しながら生きようと考えました。その感謝とは「自分ががんばっている姿を見せること」と発言した姿は大変輝いていました。2年生でも、自分も周りの人も大切にしながら生きていってください。(176字)

<満足度調査…満足>

2年生になったとき、自分が道徳で何を考えれば

よいかある程度わかってきたと思うし、1年生の道徳をがんばったかいがあったのかなと感じられたから。1年間でしっかり自分のことを見ていてくれたんだと感じたから。この文章を読むことで来年度もまたがんばろうと思いました。

「がんばったかいがあった」「来年度もまたがんばろうと思った」という生徒のコメントには、達成感や満足感がうかがえる。生徒一人一人の成長をしっかり見ることの大切さを改めて感じさせられる。

<評価文>

どの授業の後にも、ふり返りには深まりのある考えが記述されていました。3学期の終わりに行った「終わりのない旅に」では、主人公が探している自分とは、「周りに流されない強い心をもった自分だ」と述べました。また、友達の意見を聞いて「自分に正直になれる自分」でもあると考えました。最終的に、自分の気持ちに正直になることは難しいときもあるけれど、後悔しないように生きていきたいという考えに至りました。(194字)

<満足度調査…まあ満足>

親にはよいかもしれないけど、私には「ふ～ん、そうなんだ」で終わってしまう。

生徒の考えや記述のみを書いただけでは、「よさを見つけ、励まし、伸ばす」評価にはならず、生徒の心にも響かないことがわかった。やはり、学習したことの意義や価値を再実感でき、自らの成長を実感し、意欲の向上につながられる評価とするためには、応援メッセージとしての評価文がふさわしい。

評価に取り組むことは、確かに大変であり、手間も時間もかかる。しかしその分、評価によって生徒の成長をさらに促すことも確かである。

生徒・保護者・先生が うれしい評価

対話的で深い学びの授業を通して

ますだ ちはる
増田 千晴 江南市立古知野中学校教諭

◇ 道徳科の評価とは

道徳科の評価は、個人内評価であり、その子どもがいかに人間的に成長しようと努力しているかを積極的に受け止めて認め励ますことです。教師のねらいにどれだけ到達したかという到達度評価ではありません。自己内対話と他者との対話によって、自分の道徳的価値をどれだけ広げ、深めたか、その成長と学びの姿を見取り、生徒を認め、励ましになることが評価であると考えます。道徳科における評価は、次の二つを見取ることです。一つめは、自分に問いながら、他者との対話によって、また、自分に問っている、その「学ぶ姿」です。二つめは、対話によって深めている自己から生まれる自分のこれからの人生に期待をもつ、「人としての将来への期待」です。

◇ 生徒・保護者・先生にとってうれしい評価とは

生徒・保護者にとってうれしい評価

- ①自分（わが子）の人間的な成長を見守ってくれている。
- ②自分（わが子）のよりよい生き方を一生懸命に考える努力をわかってくれている。
- ③自分（わが子）を勇気づけてくれている。

先生にとってうれしい評価

- ①生徒同士・生徒と教師で対話している授業中（授業を受けて授業後の生徒と教師の対話も含まれる）の学びが自然に評価に結びついている。（人として教師がうれしい）

②眼前の対話をしている空間での生徒の学びの姿を、端的に表現できる。

◇ 生徒・保護者・先生にとってうれしい評価はどこからやってくるのか？

それは、対話的で深い学びの授業からやってきます。はじめ、わかっているつもりになっている自分の道徳的価値が自己内対話と他者との対話によって、いろいろと自分とは違う異質の考えを聴きます。その時、わかっているつもりの方が疑わしくなってきた「本当にそうなんだろうか」「ちょっと待って」と再び自分が自分に自分を問う自己内対話を始めます。もう一度自分に問うても「やっぱり最初の自分の考え通り……」「少し友達の違う考えがわかるような……」「みんなのたくさんの違った考えを聴いて新しい考え方が生まれつつあるような……」というように、対話によって自分が広がり、そこから自分の考えを深めていく。これが対話的で深い学びの授業です。

◇ 対話的で深い学びになる授業 ～三つのステップ～

①率直な自分の考えを出してみ、客観視しようとする。

（道徳的価値が）わかっているつもりの方に疑問が生まれ、広い視野から多面的・多角的に考えられる発問を立てる。（中心発問①）

②物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える。なぜ・どうしてという理由や根拠を問う。（中心発問①'）

③自己（人間として）の生き方についての考えを深める。

自分の発想にはなかった、これからの自分の生き方に参考になる考えはどれかを考える。（中心発問①''）

このように、中心発問からの重層的な発問が重要な鍵になります。

授業記録より(抜粋)

「銀の燭台」(D-22 よりよく生きる喜び)

中心発問①(ステップ①) ★…評価(見取り)の視点

◎ジャンはこのあとどういう生き方をしていくと思
いますか。

- ・真剣に働く！ ……………ア
- ・また盗みを犯す ……………イ
- ・自分も人を救う ……………ウ
- ・最初、司教さんのように人を救おうと思ってが
んばるけど失敗して、また盗む。…エ
ア…多数 イ…3人 ウ…6人 エ…1人

中心発問①'(ステップ②)

○皆さんがどうしてそう考えたかを聞きたいです。

- ・町の人達にあんな目で見られ、がんばろうとして
も認めてくれない。失敗したらもつとみんなから
ひどい目で見られる。自分だったら「まじめにや
れ」と言われても、心が折れてできない。だから、
元の自分に返って盗みをするとする。最初はまじ
めにやろうと思うけど。<イの理由>

- ・最初はまじめに努力しても、失敗したら周りの目
も自分を応援してくれなくなり、きっと冷たくな
るから挫折すると思う。まじめになんかなれなく
てまた、盗みをするとします。<エの理由>

- ・みんなどうしてそんなに心がきれいなんだろう。
私の心は汚れてるのかなあ。<エの理由から>

この生徒の小さなつぶやきが、学級の対話に広がり
と深まりをもたらしした。数人の意見がアからイに
変わった。

★…つぶやいた生徒の学びの姿を評価として見取
ることで、生徒は認めてもらったと実感し、励ま
される。 **生徒がうれしい評価**

- ・真剣に働くんじゃないの？ まじめな人間になる
ために、どんなことがあっても真剣に働くんだと
思うけど。<アの生徒からの発言>
- ・一度悪いことをしたり失敗したりすると、なか
なか立ち直れず、「まあいっか」となってまた悪い

ことを繰り返しやってしまう。人ってそういうと
ころがあると思う。自分もだけど……人は簡単に
変わらない。許してもらうまでは悪をつき通す。
<イの理由としての発言>

★…自分のことをジャンに重ね合わせて分析し、
それを学級で勇気をもって話す姿を見取って、教
師は評価をすることができる。

生徒がうれしい評価 **先生がうれしい評価**

- ・ジャンは何で泣いたの？ 泣いた意味がないよ。
(アの生徒が学級に問いかけた。)
- ・僕はどんなときも善100%で生きています。人の
心の中には悪の心と善の心があることがわかっ
た。でも、心の中は善の心100%じゃなくちゃ。悪
いことは絶対やっちゃだめなんです。どんなこと
があっても善の世界で生きなきゃだめなんです。
<ウの生徒からの発言>

★…自分の今までの生き方とこれからの生き方を
伝えている。自分の生き方だけでなく、人はどう
生きていくべきかという、自分のこれまでの道徳
的価値観とともに新たな価値観を話す姿を見取る
ことができた。このことを保護者に伝えたところ、
「やってもらってうれしいことができるといいね、
と家庭ではいつも話していますが、いろいろとで
きないことが目について、なかなか褒められませ
ん。あの子のいいところを見てくださって、あり
がとうございます。」という、幼い頃からこのよ
うに話して育ててきたことが心の中にあるからこ
その発言があった。 **保護者がうれしい評価**

○ジャンは悪の世界で生きるしかない、仕方ないとい
うけれど、ジャンの立場に自分になったらそれ
でいいのですか？

悪の世界で生きるのは仕方ないと言っていた生徒
が、「それは困る」と口をそろえて言う。

○じゃあどうやって生きていったらいいんだろうか。

- ・人はきっかけがあれば変わる。きっかけをもの
にして、うまくいかなくてもチャレンジし続け

ばいい。

- ・悪の世界を、自分で乗り越えて、まじめにやっ
ていくしかないと思う。自分がやるしかないと思
う。最後は自分がやり通すしかない。

中心発問①〃(ステップ③)

- 自分になかった考えや、これからの生き方の参考
になった考えを教えてください。
- ・私は、アで、まじめに働いていけばいいとはじめ
は思ったけど、人間そう簡単に変わるものでも
ないし、人は弱いところがあることも、みんなの
話でよくわかりました。それを乗り越えて、最後
は自分がやり通すしかないという考えがとても
参考になりました。

★…人生は「やり直せる」と思っていたが、自己
内対話と他者との対話により人間の弱さに気づく
ことができた。やり直す道のりは困難であるが、
自分を信じて自分で切り開くことができると、考
えを深めることができた。前の自分より自分がわ
かるようになった。この成長の姿を評価し、この
生徒の新たな学びに期待することができる。

生徒がうれしい評価

先生がうれしい評価

◇ 生徒・保護者・先生がうれしい評価文

次の①・②・③の視点から一つか二つに、④の視
点をあわせると端的な評価文になります。①・②・
③は学期や1年の時間のなかで見取った学びの姿
や、個人の中で成長が見られたところを記述します。

- ①自分事で考えているか。(教材→自分の生き方と
して考えているか)
- ②自分の考えが広がっているか。(多面的・多角的
に考えているか)
- ③対話によって、自分の考えをどのように深めたか。
- ④生徒のいきいきとした発言・成長があるか。

【評価文例】

主人公の生き方を自分のこととしてとらえ、自
分に自分の生き方を問い、考える姿を見ること

ができました。(①の視点)

「銀の燭台」では、「人はいろいろなことがあつ
ても人生を新しく生き直すことができる」と道
徳ノートに書き自分の考えを新しく築くことが
できました。(④の視点/生徒が「人間的な成長を見守つ
てくれている。勇気づけてくれている」と感じられる評価)

自分の考えをしっかりとつことができるように
なってきました。さらに、友達の考えを聴いて
自分の価値を新たにつくり出すようになりまし
た。(②の視点)

「銀の燭台」では、人は挫折するとなかなか立
ち直れないと考えていましたが、自分が乗り越
えてよりよく生きるしかないという意見に影響
を受けたと発言しました。(④の視点/生徒が「よ
りよい生き方を一生懸命に考える努力をわかってしてくれ
ている。勇気づけてくれている」と感じられる評価)

教材の主人公を自分のことのように受け止め、
これからの自分の生き方について深く考えられ
るようになってきました。(③の視点)

「銀の燭台」では、人間は弱いものであるとい
う思いを話したあと、悪の世界だけで生きるの
ではなく、善の世界でも生きることができると
考えを深めました。(④の視点/生徒が「よりよい生
き方を一生懸命に考える努力をわかってくれている。勇気
づけてくれている」と感じられる評価)

友達と対話を重ねるなかで、自分の考えを明ら
かにしたり、深めたりすることができました。
(③の視点)

「銀の燭台」では、「人に言われて変わるのでは
なく、自分の力で自分の人生を変えていく。自
分はそんなふうに生きたい」と道徳ノートに書
きました。これからの生き方に期待をもつこと
ができました。(④の視点/生徒が「人間的な成長を見
守ってくれている。勇気づけてくれている」と感じられる
評価)

道徳科における 組織的な 評価の試み

「ローテーション道徳」を通して

ほし み ゆ き
星 美由紀 郡山市立郡山第五中学校教諭

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』の「第5章 道徳科の評価」では、従前に比較して大きな加筆があった。いわゆる「ローテーション道徳」の効果について述べられている部分を引用する（p.114）。

年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行うといった取組も効果的である。このことは、教師が自分の専門教科など、得意分野に引きつけて道徳科の授業を展開することができる。また、何度も同じ教材で授業を行うことにより指導力の向上につながるという指導面からの利点とともに、学級担任が自分の学級の授業を参観することが可能となり、普段の授業とは違う角度から生徒の新たな一面を発見することができるなど、**生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握することができる**といった評価の改善の観点からも有効であると考えられる。（太字は筆者）

ローテーション道徳が評価の章に記述されていることには、大きな意義があると考えられる。複数の目で生徒のよさや成長を見取ること、評価の妥当性と信頼性を担保し、評価に対して教員が共通認識をもつ機会づくりになると考えるからである。

◇ ローテーション道徳の手応えと課題

私がローテーション道徳の具体像について初めて知ったのは、『中等教育資料』2016年6月号に掲載された愛媛県西条市立河北中学校の実践事例を通してであった。確実に道徳授業の時数を確保できる、教員の指導力向上につながる、生徒の道徳授業にお

	木					
	1	2	3	4	5	6
学年主任		1-3 1-4			1-1 1-2	2-3 2-4
1組担任	2-6	2-1		道徳		支援級 技家
2組担任	1-2	1-6		道徳	1-5	1-1
3組担任		3-7		道徳	2-5	
4組担任	1-1	1-2		道徳	1-3	1-4
5組担任		1-1	1-2	道徳	1-4	1-5
6組担任	1-6		1-1	道徳	3-1	1-2
副担任1	1-5	2-2	1-4			1-3
副担任2	1-4		1-5			2-5

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	空き(参観)		
9/21	主任	副1	担1	担2	担3	担4	担5	担6	副2
10/5	担5	担6	副1	副2	担1	担2	担3	担4	主任
10/12	担3	担4	担5	担6	副2	主任	担1	担2	副1

資料1 木曜の通常時間割（上）・ローテーション道徳の授業者と担当クラス（下）

ける学習状況を複数の目で見取ることができるなど、ローテーション道徳のメリットを多く感じ、道徳教育推進教師として「ぜひ、自分の学年団でも実施してみたい」と考え、平成29年度、所属していた1学年で、2学期半ばの3週にわたり、ローテーション道徳を実施した（資料1）。

学級担任の担当教科によっては、週1時間しか自分のクラスでの教科授業がもてない。道徳・学活・総合の時間は、クラスの生徒と関わる重要な時間となるため、安易に担任以外の授業者による道徳授業を導入することは避けたい。そのような理由からも、本校のように各学年6クラスを超える規模の学校で、ローテーション道徳を実施する際には、3週程度が妥当であろうと判断した。本校の時間割は、学年の道徳のコマを同一にし、学年所属の担任外教員も空き時間となっているため、ローテーション道徳をスムーズに実施することができた。

実施後には、「同じ学年の生徒でありながら授業を担当していない生徒への理解が深まった」「同一教材を複数回授業することによって、発問や板書を改善することができたため、自信をもって授業できる教材が一つ増えた」「担任の先生だけではなく、

さまざまな教科・立場・経験年数の違う教員と道徳授業をすることで、より多様な価値に触れ、自分の考えを広め、深めることができた」など、ローテーション道徳を通じて教師・生徒ともに大きな手応えを得ることができた。

しかし昨年度の実践では「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握する」「生徒の変容を複数の目で見取り、評価に対して共通認識をもつ」といった、いわゆる「組織的な評価」の面が大きく欠落していたのは否めない。教員同士による、生徒の見取りに関するやりとりは職員室内で活発になされていたが、「評価方法」や「評価のために集める資料」を、道徳教育推進教師として全教員に明確に示すことができなかつたことが一因であると考え。また、教員の評価に対する負担感の軽減につながったかという点、疑問が多く残る結果となった。

◇ 組織的な評価に向けての手立て

そこで30年度は、「組織的に評価するための評価方法や資料のブラッシュアップ」を目標に、実践を進めているところである。

校長先生のリーダーシップにより、本校では30年度から通知表に「道徳科の評価」の欄を設け、保護者と生徒に道徳科の学習状況を伝えることが職員会で示された。そこで木下美紀先生（福岡県）のご提案を参考に、指導要録・通知表への道徳科の評価を記述する際の視点を、「自我関与」「道徳的な問題場面における学びの姿勢」「自己課題・実践化」の3点とする。公簿である指導要録では記入枠の大きさから「文字数60字程度」とし、通知表では、要録用の文言を冒頭に口語調で書き、「特に」という表現で、学習状況の具体的な表記へとつなぐ。その際生徒による学習アンケート結果をもとに、教師の手元資料（ワークシートをスキャンし

ておいたもの、日々の授業の見取りなど）と比較して具体的に150字前後で書くようにする、といった学校としての評価方針を提案し、了承を得た。

「毎時の生徒の学びの記録の累積」（評価のために集める資料）としては、ワークシートのほかに「生徒の自己評価表」「授業者による記録」の2種類を活用している。

資料2は、毎時のふり返りにおいて活用している自己評価表である。前述した、本校での三つの評価の視点に加えて、「意見交換の状況」「多様な考えに触れる」「自己の考えの記述の状況」についての問いを設けた。毎時の自己評価を累積していくなかで、その子の学習状況や変容を見取ることができる。たとえば資料2からは、この生徒の「積極的に発言することに対して苦手意識をもっているが、友達の意見に耳を傾けて考えを深め、自分の考えを記述し、学びをこれからの日常生活に生かそうとしている姿」を見取ることができるであろう。なお、この自己評価表のスタイルは幸阪芽吹先生（東京都）のご提案を参考にした。

また、「授業者による記録（見取りの累積）」では、少しでも授業者の負担を軽減するためエクセルのVLOOKUP機能を使ったブックを作成し、学校のサーバーに保存した。授業者が自由にサーバーからダウンロードし、学級名簿のデータを貼りつけ、生

月 日	4/20	5/17	5/24	5/31	6/5	6/14	6/21
教 材 名		5/10-77 4/17-2 2/11	0/10-77 の 友 達	もったい ない	銀色の シャープ ペンシル	和定香 の 思い出	私もいい のね 2/11
今日の授業に意欲的に取り組むことができた。	A	B	A	A	A	A	A
①積極的に友達と意見を交換することができた。			0				
②友達の意見をたくさん聞き、いろいろな見方・考え方を知ったり、ふれたりすることができた。	0	0	0	0	0	0	0
③自分の考えを持ち、記述することができた。	0		0	0	0	0	0
④「自分ならどうか」と考えたり、自分の経験を思い出したりして考えを深めた。	0	0	0	0	0	0	0
⑤自分なりに問いや疑問をもち、積極的に問題を追究しようとした。							0
⑥「これから～していきたい」「こうすればいいのね」などのように、日常生活に活かしたいことを見つけた。		0		0	0	0	0

資料2 生徒の自己評価表（毎時のふり返り）の例

※ 4/20 は記入例として示した。

①別ファイルの「学級名簿」からコピーした「氏名」を、「名簿」のシートに貼りつける。

②「名簿」シートとリンクしたVLOOKUP関数を入れた、「道徳評価の記録」のシートを開く。

③番号を入力すると自動的に生徒氏名が入る。

1	2	3	4	5	6	7
	1	石塚				
	2	伊藤				
	3	今井				
	4	大関				
	5	沖田				
	6	菅家				

④「おもしろい」「興味深い」と感じた生徒の発言や記述について、授業後にその理由も含めて記録していく。

⑤出席番号でソートすると、同じ生徒の変化について見取ることができる。

1	2	3	4	5	6	7	8
1	月日	教材名	番号	氏名	道徳授業の記録		
2	4月20日	ロレンソの友達	6	菅家	自分からは発言しないが、友人の話をよく耳を傾けていた。		
3	4月20日	ロレンソの友達	2	伊藤	友達の見解に流されず、友達について自分なりの考えを表現していた。		
4	4月20日	ロレンソの友達	3	今井	自分自身の体験と重ね合わせながら、友達について考えを深めた。		

資料3 授業者による記録ブックの使い方の例

生徒番号を入力すれば自動的に氏名が記入されるようにした(資料3)。授業者が「おもしろい」「興味深い」と感じた生徒の発言や記述について、授業後にその理由も含めて記録していく。時系列で記入していくが、出席番号でソートすることによって一人の生徒の変化や成長について見取ることができる、教師の手元資料となる。学校のネットワーク上に保存しておけば、担任以外の授業者による記録の累積も容易にできる。

また、すでに実践されている学校も多いと思われるが、年度末には生徒自身による1年間を通した自己評価ができるワークシートを用意した(資料4)。

◇道徳科の評価を複数授業者の目で

評価の妥当性と信頼性を担保するために、道徳科の指導記録を分析し検討する機会をもつことは、多忙な学校現場では容易なことではない。しかしローテーション道徳を実施することによって、学年会の機会に、複数の目で見取った生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子についての意見交換が可能とな

1 今年度の道徳の授業で「ためになった」「勉強になった」「心に残った」ものを選び、1位から3位までを記入してみましょう。

番号	学習日	教材	ランキング	あらすじ
1	4/19	道徳オリエンテーション		班で協力して絵を描き、友達の発言に付け加えたりしながら新しい考えをつくり出していく。
2	4/26	いいとご探し		友達のよさを伝え合い、自分の個性に気づき、自分のよさをこれからどう伸ばしていくかを考える。

2 1でその授業(教材)を選んだ理由と、授業後に授業で学んだことに関する経験などがあつたら書いてみましょう。

	選んだ理由・学んだことに関する経験
1位	
2位	

3 道徳の授業を通じて、1年間で自分が成長したことを書いてください。

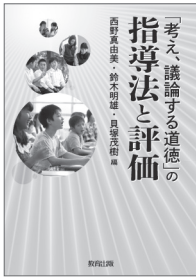
4 道徳授業の満足度を教えてください。
【満足 まあ満足 あまり満足していない 満足していない】
※その理由を書いてください。

資料4 学年末の自己評価表の例

り、教員一人一人の評価に関わる力量も高まってくると思われる。複数の授業者の目で評価することができるローテーション道徳では、評価の妥当性と信頼性を担保することにつながる可能性が高い。可能な限り担任が参観する方向で、今年度も2学期にローテーション道徳を所属学年で実施する予定である。

先日、ある研究会で、道徳授業の通知表所見を読んだ保護者や子どもからの感想を聞かせていただく機会があった。保護者からは「道徳の具体的な内容がわからなかったが関心度が増し、子どもが学んでいたことを知ることができた」「所見を子どもと一緒に読んで褒めることができた。祖父母にも見せたところ子どもがうれしそうにしていた」、子どもからは「先生はたくさん私たちを見てくれた」「自分でも気づかないことを見つけてくれた」といった受け止めがあつたと聞き、勇気をもらって帰ってきた。子どもの成長を積極的に認め励ます評価を目標に、全担任で所見を書いてみることで課題を洗い出し、来年度からの教科化に備えたい。

道徳関連書籍のご案内



「考え、議論する道徳」の指導法と評価

西野真由美・鈴木明雄・
貝塚茂樹 編

B5判／208頁
定価：本体2,400円＋税

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業と評価の先進事例を豊富に紹介！

主な内容

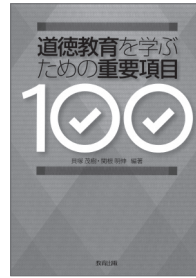
序章 道徳科の設置と「考え、議論する道徳」

第I部 「考え、議論する道徳」の指導法

1. 読み物教材の登場人物の自我関与が中心の学習
2. 問題解決的な学習
3. 道徳的行為に関する体験的な学習

第II部 「考え、議論する道徳」の評価

1. おおくりの評価に向けた授業評価
2. 記録を蓄積して評価する一通知表・指導要録における評価に向けて
3. 子どもとともに創る評価へ



道徳教育を学ぶための重要項目100

貝塚茂樹・関根明伸 編著

B5判／240頁
定価：本体2,400円＋税

「特別の教科」となった道徳教育の理論と方法を、100の項目でコンパクトに解説。

- 100項目の見開き解説（各2～4p）で構成。
- 道徳教育を支える理論や歴史的背景の理解から、授業の実際までを、幅広く網羅。
- 現職教師および学生が「特別の教科 道徳」を学ぶために最適。

主な内容

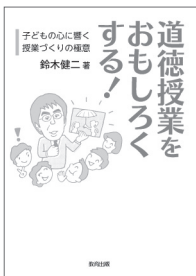
第1部 道徳教育の理論と歴史

第2部 諸外国における道徳教育

第3部 学校教育と道徳教育

第4部 学習指導過程と学習指導案

第5部 道徳授業論の展開



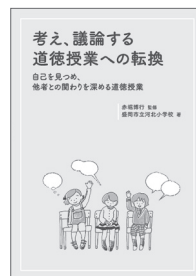
道徳授業をおもしろくする！

子どもの心に響く授業づくりの極意

鈴木健二 著

A5判／128頁
定価：本体1,800円＋税

こんな素材・こんな問かけで、子どもは考え議論するようになる！——教材開発のコツや授業を構成するポイントを解説。



考え、議論する道徳授業への転換

自己を見つめ、他者との関わりを深める道徳授業

赤堀博行 監修

盛岡市立河北小学校 著

B5判／116頁
定価：本体1,800円＋税

「考え、議論する道徳」に向けた授業改善の要点を解説するとともに、道徳授業の実際など具体的な取り組みを紹介。

お問い合わせ／TEL：03-3238-6965 FAX：03-3238-6999

多面的・多角的な学びのある 授業をつくる

対話的な学びと思考の見える化

ももさき たけとし
桃崎 剛寿

熊本市立白川中学校校長

平成31年度から「特別の教科 道徳」が中学校でもスタートし教科書が給与されます。教科書は「主たる教材」になりますが、一方で「読んだらぬらいがすぐわかってしまう読み物教材ばかりではないか。その中で多面的・多角的にどう考えさせたらよいか」という不安の声もあります。今回は、定番教材を使い、対話的な学びと思考の見える化により「考え、議論する」道徳科の授業づくりをどう進めればよいか、授業プランを通して示します。

★教材「二通の手紙」

『私たちの道徳 中学校』（文部科学省）にも掲載されている、中学校道徳授業の定番教材「二通の手紙」。「元さん」がとった言動について考えることで「規則の大切さ」に迫る、人気が高い教材です。

【概要】動物園の入り口に、入園時間を過ぎてから現れた幼い姉弟。「今日は弟の誕生日だから」と入園をせがむが、保護者の同伴もない。姉弟の事情を察した入園係の「元さん」は、園の規則を破って入園を許可するが、二人は園内で一時行方がわからなくなってしまうものの無事発見される。二人の親からは感謝の手紙をもらうが「元さん」は懲戒処分となり、自ら職を辞する。

★授業のねらい

規則を守ることは、ときには人に悲しい思い等させてしまうことや、規則のよりよい在り方について考え、規則の大切さや意義を理解し、道徳的判断力を高める。

★根拠を多面的・多角的に考える

挿絵を使って教材の概要に少し触れたあと、教師が途中解説を加えながら範読し、生徒に規則の内容や状況を理解させます。状況を補足しながら発問を行うことで、なるべく導入に時間をかけないようにし、後半の活動の時間を確保できるようにします。

発問1 どうして「元さん」は規則を破ってしまったのでしょうか。

次のような生徒の意見が予想されます。

- ①幼い姉弟へのいたわり、哀れみ、思いやりの気持ちから。
- ②人生のすばらしさを感じてほしかったから。幼い姉弟を応援したかったから。
- ③どうにか姉弟の期待に応えたいという元さんのプロ意識・おもてなしの心から。

教科書に掲載しているであろう内容項目一覧のページを見せ、「22の道徳のキーワードから一つ選んであてはめるとすると、何かな」と尋ねると、①には「思いやり」、②には「よりよく生きる喜び」、③には「勤労」あたりをあてはめられるでしょう。これらを板書します。他に「寛容」もあるかもしれません。

発問2 「元さん」は姉弟のお母さんから感謝の手紙を受け取りますが、そのあとに起きたことを考えると、「元さん」の行動にはいけなかったことがあります。どんなことでしょうか。



次のような生徒の意見が予想されます。

- ④規則は規則だから守るべきだった。
- ⑤幼い姉弟の安全が確保できていなかった。
- ⑥他の客に平等でなかった。

これも発問1と同様にキーワードをあてはめさせると、④には「遵法精神（本時のねらい）」、⑤には「生命の尊さ」、⑥には「公正、公平」あたりをあてはめるでしょう。これらも板書します。

✳ 思考を「表」で見える化する

発問1で導かれた①から③の道徳的価値と、発問2で導かれた④から⑥の道徳的価値をそれぞれまとめて対立軸とみるのではなく、①から⑥の六つの視点「思いやり」「よりよく生きる喜び」「勤労」「遵法精神（本時のねらい）」「生命の尊さ」「公正、公平」ごとに、「A 入れない」「B 入れる」の判断について次の表1で検討します。

ここでは六つの価値を横軸に置いて検討しましたが、学級の実態にあわせて絞り込んでもいいでしょう。

	思いやり	よりよく 生きる喜び	勤労	遵法精神	生命の尊さ	公正、公平
A 入れない						
B 入れる						

表1

発問3 「入れない」「入れる」それぞれの判断は、①から⑥の六つの視点を大切にしていると思いますか（○×をつけましょう）。

発問1、発問2の流れから、次の表2のように考える生徒が多くなるでしょう。

	思いやり	よりよく 生きる喜び	勤労	遵法精神	生命の尊さ	公正、公平
A 入れない	×	×	×	○	○	○
B 入れる	○	○	○	×	×	×

表2

しかし、道徳的諸価値を多面的・多角的に考えていくと、表3のように表2とは異なる考えも出てくると思います。

	思いやり	よりよく 生きる喜び	勤労	遵法精神	生命の尊さ	公正、公平
A 入れない	○	○	○	×	×	○
B 入れる	×	×	×	○	○	×

表3

このように異なる考えが出てくるのには、次のような理由が考えられます。

- ・子どもの安全を考慮して判断することが本当の思いやりだと思うので、入れないのが○であり、入れるのが×
- ・規則の大切さを教えることも人生をすばらしく生きるために大切なことだと思うので、入れないのが○であり、入れるのが×
- ・お客さんに喜んでもらう情熱は大切だが、規則の範囲でベストを尽くすのが勤労では大切。入れないのが○であり、入れるのが×
- ・規則だから絶対守るというのではなく、その場その場で臨機応変に考えなくてはいけないこともある。だから入れないのが○で入れるのが×だと単純にいえず、逆になることもあると思う。
- ・幼い姉弟がこの楽しかった経験をもとに生きる喜びを感じていけるかもしれない。命が輝き始めるかもしれない。そう考えれば入れないのが○で入れるのが×だと単純にいえず、逆になることもあると思う。



**対話的な学びで
多面的・多角的な考えを学び合わせる**

授業者は机間巡視をして○×の散らばり具合を把握し、表2とは異なる考えと出会えるよう、ペアで考えさせるか、4人班か、6人班か考えます。表を活用することで考えていることが見える化されるので、対話的な学びがしやすいというメリットがあります。そこで異なる検討をしたところを焦点化して考えさせます。

「決められた時刻を過ぎたら入園させない、保護者の同伴がない子どもは入園させない」という規則を守るか、守らないか（「入れない」か「入れる」か）を扱っている以上、そこでの議論には遵法精神がなんらかの形で関連してきます。自由に多面的・多角的に生徒は考え合いながらも関連を保ったまま、本時のねらいへと向かえるのです。

少人数での学びを全体で共有するには、各班でどのような議論をしたか班に説明させたり、黒板に大きな表1を貼り各班に記入させてどこかの項目に焦点化し全体で協議したりする方法が考えられます。ここもアクティブに展開したいところです。

他にとりうる行動を考える

「元さんがとりうる行動は、他によい方法があったのではないか」という発展的な扱いのプランを紹介します。難しい状況の中で判断をしなければならなかった「元さん」の苦悩を理解したうえで、姉弟にとって優しい対応でありながらも規則を守る意義を損なわない、他の方法を考えさせます。

発問4 それでも「元さん」は、この子どもたちの気持ちを大切にしたいばかりに規則を破る判断をしましたね。その結果、動物園に迷惑をかけてしまい、姉弟も危険なめに遭う可能性があります。入れないか入れるかだけでなく、「こういうふうになればもっとよかったのではないか」という方法を考えよう。

アイデアが豊富な生徒に発表させましょう。次のような発想が期待できます。括弧の中のことが抜けやすいので必ず補足をしていきます。

- C（入れるが）誰かが一緒についていく。
- D（入れないが）無料のグッズ等をあげる。
- E（入れないが）別の日に来てもらい、時間の都合をつけた誰かが一緒についていく。

「入れる入れないの前に、まず上司に相談する」という意見もよく出ますが、前提の整理が必要になったり、解釈の多様さからねらいに向かうのが難しくなったりすることから、「相談する時間があれば相談するにこしたことはないね」と受け止め、「できれば上司に相談」と板書しておく方法がおすすめです。

下の表4を用いて今まで述べてきたような学習を進めていけば、ますます「入れる」ことの難しさ、すなわち規則の大切さや意義に気づいていくでしょう。

	思いやり	生きると喜び	勤労	遵法精神	生命の尊さ	公正、公平
A 入れない						
B 入れる						
C（入れるが）元さんかスタッフが一緒についていく						
D（入れないが）無料のグッズ等をあげる						
E（入れないが）別の日に来てもらい、誰かが一緒についていく						

表4

美しいクラスとは、 どんなクラス でしょう

ちば こうじ おとふけ
千葉 孝司 音更町立音更中学校教諭

大人がいじめ解決の当事者に

欧米諸国では、いじめを解決する責任は子どもではなく、大人にあると考える。いじめをなくす第一歩は、大人がいじめの存在に気づくことである。加害生徒への指導なくして、いじめの解決はない。教師には、その当事者たる自覚が必要だ。しかし、日本では大人の積極的な介入の必要性については、コンセンサスを得ていないように感じられる。

いじめ解決を妨げる考え方に「子ども同士の問題に大人が首をつっこむべきではない」というものがある。揉めごとなどは人間関係が近い者の中でこそ起こるから、友人同士のケンカは、あつてしかるべきものであり、当人同士で解決するのが望ましい。しかしケンカといじめは別のものである。いじめをケンカととらえ、被害生徒をさらに追い込んでしまう事例もこれまで多く見られた。

「喧嘩両成敗」という考え方も同様である。これは加害者側に有利な考えである。とにかく争いを避けるという風潮は、被害生徒に問題を訴えにくくさせている。

いじめは同じ友人グループの中で、遊びに偽装されて行われることも多い。積極的に偽装しなくても、遊びの延長で起こることもある。このことは、大人のいじめへの介入を難しくさせる要因の一つではある。

しかし友人グループ内でのいじめは、根底に「○○さんにならやってもいい」という甘えがあるものだ。

つまりいじめは悪いということはもちろんわかっているが、目の前の行為に関しては許容してしまっているのである。その状態で当事者同士に話し合いをさせてしまうと、多数決の論理や強いものの論理がはたらき、被害者側が孤立したり、責任を負わされたりすることにつながってしまう。被害者側からすると、話し合うことによって事態が余計に悪くなったり、言っても無駄に終わってしまったることになる。

DVを夫婦だけの話し合いで解決することができようか。犯罪を被害者と加害者が話し合っ解決できるだろうか。実際に、友人グループ内でいじめを止めようとしても、「次はお前をいじめるぞ」と脅され身動きがとれなくなることもある。いじめは大人が積極的に介入しなくてはならない問題なのである。

子どもをいじめ予防の当事者に

一方、いじめの予防には、二つの要素がある。一つは、発生したいじめが芽のうちに摘むことである。芽に気づいた子どもは大人に知らせ、放置しておくといじめにつながりそうな遊びなどについて、大人は目を光らせる。そのためには、大人に知らせた子どもが報復を受けないためのフォローや、匿名で大人に知らせることができるような環境を整えることが必要である。

もう一つは、いじめの起きにくい学級風土をつくることである。これは教師の力だけでなく、学級集団の力が必要だ。ここにこそ子どもたちのエネルギーが向かうようにしたいものだ。具体的には、いじめというネガティブな行為と両立しない「ポジティブな行為」を増やしていくのである。

人は嫌なことがあれば、つい誰かに八つ当たりしてしまうこともある。その反面、つらそうにしている人を見るとそのままにしておけない気持ちになることもある。学校生活で、ときにつらい思いをすることは避けられない。だからこそ、つらい思いをし

ている人の気持ちを理解し共感することができる。

最近の若者の特徴として、ボランティア意識の向上などがあげられる。人のために役に立ちたいという思いを子どもも強くもっている。方法さえわかれば、人のためになる行為をすすんですることもあるだろう。そんな生き方のモデルを示すことも、大人の大切な役割である。

いじめをなくすために伝えたいこと

では、いじめと両立しない「ポジティブな行為や行動」には、どんなものがあるだろう。次のエピソードや絵本には、そのヒントがある。

その1 (エピソード)

カナダのある学校でピンク色のシャツを着ていた少年が、「ゲイだ」とからかわれ暴力を受けた。それを知った上級生が、ピンク色のシャツをディスカウントショップで多数購入し、翌朝校門前に置くので着用するよう友人に呼びかけた。するとその呼びかけが広まって、多くの生徒が自主的にピンク色の服を着たり、ピンク色の小物を身に着けたりして登校した。その日、学校中がピンク色に染まり、その学校のいじめは収まった。

このエピソードがメディアに取り上げられると世界にまで広がり、カナダでは2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」とし、いじめに反対する意思を表明する日となっている。

その2 (エピソード)

アメリカで11歳の少年が、がん治療の影響で髪がうすくなった祖父を励ますために、自ら丸刈りにした。しかし彼はそれが原因でいじめに遭う。それを知った校長先生は、生徒を集め、自分自身の髪を丸刈りにしてみせた。その後数人の生徒が少年に謝罪したという。

その3 (絵本)

『わたしはヴァネッサと歩く クラスのいじめを止めさせた、たった一つの行動』(2018年、ケラスコエット、岩崎書店)

転校してきたヴァネッサという女の子は、いつもひとりぼっち。一人の同級生が、ヴァネッサがいじめられていることに気づく。彼女はヴァネッサを助けるために、悩みぬいた末、家まで迎えに行き一緒に登校する。そんな様子を、文字を使わずに絵だけで表現している絵本である。

いじめを題材にした絵本は数多くある。それらを読み聞かせ、教室に置いておくことも効果的である。中学生は権威に従順であろうとする時期から、物事を批判的にとらえようとする時期へと移行する。そんな時期の子どもに、なんらかの価値観を伝えることは容易ではない。ときには最初から斜に構えた子どももいる。絵本は、子どもが無条件で受け入れようとする数少ない教材である。それまでそっぽを向いていた子どもも、絵本を出したとたん目を輝かせ、身を乗り出すのである。

1～3はどれも、いじめの被害者ではない、いじめに気づいた者がとった行動が、いじめをなくすことにつながったという事例やお話である。このような行為を価値づけ、称賛されるような雰囲気をつくるのが、いじめをなくすうえで重要である。

道徳授業「美しいクラスとは、どんなクラスでしょう」

内容項目 C-11 公正、公平、社会正義

本時の目標 美しいクラスやその実現のためにできることを考え、いじめのない学級を築いていこうとする心情を育む。

本時の展開 ◎…教師の主な発問・指示等 ◆…生徒の活動

導入 美しさについて考える。

◎「あなたは、外見の美しさと内面の美しさとは、ふだんどちらを大切に生活していますか。」それは、どういうときですか。

◆ワークシートに個人で記入し、グループで交流する。

ある女性はこう語りました。

「優雅さは決して色あせることのない唯一の美です。」

つまり気品といった内面の美しさのほうが大切だと考えたのです。その女性の写真をお見せしましょう。

(オードリー・ヘプバーンの写真を掲示する。)

・外見もきれいだ。

展開1 いじめが美しさとは正反対の行為であることに気づく。

◎「美しいクラスとは、どんなクラスでしょう。」

◆ワークシートに個人で記入し、グループで交流する。

- ・思いやりのあるクラス
- ・仲間を大切にできるクラス
- ・整理整頓されているクラス

◎「美しくないクラスとは、どんなクラスでしょう。」

◆ワークシートに個人で記入し、グループで交流する。

- ・悪口や暴言のあるクラス
- ・いじめのあるクラス

展開2 本当の美しさについて考える。

オードリー・ヘプバーンは、アカデミー賞をはじめ数々の賞を受賞するなど世界的な大女優でしたが、人生の後半は、ユニセフの活動に力を入れます。とくに恵まれない子どもたちの援助活動に力を注ぎました。

孫娘が彼女の写真を撮影したときに、顔のしわを修正することを提案しても、「しわの1本にも手を加えないで。どのしわも私が手に入れたものだから」と答えたといいます。

◎「本当の美しさとはなんですか。」

◆ワークシートに個人で記入し、グループで交流する。

展開3 いじめをなくすためにできることを考える。

(オードリー・ヘプバーンが生涯愛したサム・レヴェンソンの「時の試練をへた人生の知恵」という詩を紹介する。)

彼女はクリスマスに、この詩を二人の息子に読み聞かせたといわれています。詩の中には、次のような一節があります。

年をとれば、きみは二本の手を持っていることに気づくだろう。

自分自身を助ける手と、他人を助ける手と。

◎「自分自身と他者を助けるために、それぞれあなたができることはなんですか。」

- ・困ったときは友達に相談する。
- ・寂しい思いをしている人がいたら、話を聞いてあげる。

終末 教師の説話を聞き、感想を書く。

他者を助けるために、こんな方法もあります。(ピンクシャツデーについて説明する。)

今、身近に困っている人がいたら、何ができるか、ぜひ考えてみてください。では、この時間に感じたことをまとめてみましょう。



(写真：アフロ)



第16回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2018年度)

まもなく締め切り!!

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2018年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催 / 教育出版 ◎協賛 / 日本環境教育学会
◎後援 / 環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



「地球となかよし」事務局 TEL. 03-3238-6862 FAX. 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



夏至の日に北回帰線が通る場所で
何かが起こる?

4月から台湾に住んでいる。地球儀を見ていると台湾を横断する北回帰線を見つけた。不思議に思い調べると、夏至の日に北回帰線が通る場所で何かが起こると聞き、家族で北回帰線標のある嘉義に行き、南中時刻に写真を撮ると、何と「影のない世界」が体験できた!

これは太陽が頭の真上に来る場所が地球上にあり、北回帰線より南、南回帰線より北の地域であり、地球は地軸を傾けたまま太陽の周りを公転するからである。世界は不思議なことばかり。私たちは台湾で影のない世界を体験できました!

中学道德通信 とびだそう未来へ (2018年 秋号) 2018年8月31日 発行

表紙写真: アマナ

編集: 教育出版株式会社編集局

印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864(お問い合わせ)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

教育出版 中学道德
特設サイト

こちらからアクセスできます



本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配付を許可されているものです。